

令和4年10月31日  
(2022年)

保護者のみなさま

吹田市立豊津第一小学校  
校長 有明 志郎

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月末に個人ごとの結果をお返ししました。また今回実施した調査結果等は吹田市ホームページに公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果を、今後の参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### (1) 国語《概要》

全国値を上回り、良好な結果でした。

#### ● 国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

##### 知識及び技能

###### 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・「話し言葉と書き言葉との違いを理解すること」は、全国値とほぼ同じである。
- ・「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えること」は、全国値を上回っている。
- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」は、全国値を大きく上回っている。

###### 我が国の言語文化に関する事項

- ・「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと」は、全国値をやや下回っている。

##### 思考力,判断力,表現力等

###### 話すこと・聞くこと

- ・「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること」は、全国値とほぼ同じである。
- ・「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめること」は、全国値を大きく上回っている。

###### 書くこと

- ・「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること」は、全国値を上回っている。
- ・「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること」は、全国値を下

回っている。

### 読むこと

- ・「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること」は、全国値を上回っている。
- ・「登場人物の相互関係について、描写を基に捉えること」は、全国値を大きく上回っている。
- ・「人物像や物語の全体像を具体的に想像すること」は、全国値を大きく上回っている。
- ・「表現の効果を考えること」は、全国値をやや上回っている。

### ●国語科における成果と今後の改善点について

ほぼ全国値を上回り、良好な結果でした。

今回の全国学力・学習状況調査の問題形式は、選択式、短答式、記述式の3種類が出題されていました。

特に「読むこと」においては、全ての設問での正答率が高く、登場人物の気持ちや相互関係に着目して、物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりすることができていました。

一方で、「書くこと」の“文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること”の問題においては、無回答率が高く、また全国値と比べ正答率が低かったことから、記述式の問題に苦手意識があると考えられます。

このことから、「読むこと」の学習を通して学んだ文章全体の構成・言葉の使い方等を、表現活動へ活用する力をさらに高める必要があります。国語科にとどまらず、他教科での発表場面や家庭学習へと活用を広げ、自分の考えを伝える文章構成・記述等、豊かな表現力を目指し、取り組みを進めていきます。

## (2) 算数《概要》

全国値を上回り、良好な結果でした。

### ●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

#### 知識及び技能

##### 数と計算

- ・「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること」は、全国値をやや上回っている。
- ・「二つの数の最小公倍数を求めること」は、全国値を大きく上回っている。

##### 図形

- ・「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解すること」は、全国値を上回っている。
- ・「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解すること」は、全国値を大きく上回っている。

##### 変化と関係

- ・「百分率で表された割合を分数で表すこと」は、全国値を大きく上回っている。
- ・「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めること」は、全国値を大きく上回っている。
- ・「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解すること」は、全国値をやや下回っている。

### データの活用

- ・「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目にあたる数を求めること」は、全国値を大きく上回っている。
- ・「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ること」は、全国値を上回っている。

### 思考力,判断力,表現力等

#### 数と計算

- ・「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述すること」は、全国値を下回っている。
- ・「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察すること」は、全国値を大きく上回っている。
- ・「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述すること」は、全国値を大きく上回っている。

#### 図形

- ・「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述すること」は、全国値を大きく上回っている。
- ・「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断すること」は、全国値とほぼ同じ。

#### 変化と関係

- ・「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述すること」は、全国値を大きく上回っている。

### データの活用

- ・「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察すること」は、全国値を上回る。

### ●算数科における成果と今後の改善点について

ほぼ全国値を上回り、良好な結果でした。また、半数以上の設問で全国値を大きく上回っていました。

今回の全国学力・学習状況調査の問題形式は、算数科の学習において大切であるとされる「言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり理論的に考えたりして、自ら納得したり他者を説得したりすること」に関わる、“「事実」を記述する問題”、“「方法」を記述する問題”、“「理由」を記述する問題”の3種類が出題されていました。

これらに対し、本校は、“「事実」を記述する問題”、“「方法」を記述する問題”については全国値を大きく上回っていましたが、“「理由」を記述する問題”は全国値を下回っていました。

このことから、論理的に考えを進めて説明したり、判断や考えの正しさを説明したりすることに課題があることがわかりました。改善点としては、帰納的、演繹的、類推的に思考する機会を増やすという事が考えられます。

毎時間の授業から、子どもたちが事象を数理的に見たり、根拠を基に筋道を立てて考えたりする姿を目指し、取り組みを進めていきます。

### (3) 理科《概要》

全国値を上回り、良好な結果でした。

#### ●理科《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

#### 知識及び技能

##### A 区分 「エネルギー」・「粒子」を柱とする領域

- ・「日光は直進することの理解」は、全国値を上回っている。
- ・「実験の過程や得られた結果を適切に記録すること」は、全国値を大きく上回っている。
- ・「メスシリンダーという器具の理解」は、全国値をやや上回っている。
- ・「メスシリンダーの正しい扱い方」は、全国値を上回っている。

##### B 区分 「生命」・「地球」を柱とする領域

- ・「昆虫の体のつくりに関する理解」は、全国値をやや下回っている。
- ・「水是水蒸気となって空気中に含まれていること」は、全国値を、上回っている。

#### 思考力,判断力,表現力等

##### A 区分 「エネルギー」・「粒子」を柱とする領域

- ・「実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつこと」は、全国値を大きく上回っている。
- ・「実験で得た結果を分析・解釈し、自分の考えをもつこと」は、全国値を大きく上回っている。
- ・「問題をまとめて検討して、改善し、自分の考えを持つこと」は、全国値を大きく上回っている。

##### B 区分 「生命」・「地球」を柱とする領域

- ・「観察の視点を基に、問題を解決する道筋を構想すること」は、全国値をやや上回っている。
- ・「観察で得た結果を問題の視点で分析・解釈すること」は、全国値をやや上回っている。
- ・「自分で発想した実験の方法を検討して、改善すること」は、全国値を大きく上回っている。

#### ●理科における成果と今後の改善点について

全体としては、ほぼ全国値を上回る良好な結果でした。

思考・判断・表現については、「分析・解釈」「構想」「検討・改善」の3つの視点に分かれて出題されています。A区分に関しては、どの視点でも全国値を大きく上回っていました。B区分に関しては、「分析・解釈」に関して、全国値をやや下回りました。

出題形式として、選択式、短答式、記述式の3種類がありましたが、記述式に関して、全国値を大きく上回りました。無解答率も全国値を下回り、自分の考えを記述することができる児童が多い結果となりました。本校の理科では、観察や実験に対して自分の考えや見立てを記述したり、互いの考えを話し合い、班として結論を発表したりする活動を多く取り入れているため、考えを書くことに抵抗が少ないためだと考えられます。問題解決の各過程における自分の考えや他者の考えについて、より科学的な視点に立ち検討・解釈し、自然の物事・現象について構想できることを目指し、取り組みを進めていきます。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

- ・「国語・算数・理科の勉強は好きですか」の肯定的回答がすべて全国値を上回っている。

- ・「国語の授業で学習したことは、社会に出たときに役立つと思いますか」、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の肯定的回答が全国値を下回っている。
- ・「5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の肯定的回答が全国値を大きく上回っている。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的回答が全国値を上回っている。
- ・ICTの活用頻度にかかる項目は、すべて全国値を大きく上回っている。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的回答が全国値をやや下回っている。
- ・「自分には、よいところがあると思いますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答が全国値をやや上回っている。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定的回答が全国値をやや上回っている。

### 3 今後の取り組み

教科に関する結果から、国語、算数、理科とも意欲的に取り組み、自分の考えを深めたり表現したりすることが全国と比べてよくできていることがわかりました。学校として国語や算数の授業改善に取り組んできたことが、児童の実感や実力としてつながってきたことがうかがえます。しかし、国語や算数は「好き」だが「自分の生活に役立てる」という視点がやや低い結果となりました。合わせて「失敗を恐れず挑戦する」「自分で計画を立てて勉強する」もやや下回っており、与えられた課題には前向きに取り組むものの、自分事として主体的に学ぶ、一步踏み出してやってみる姿勢に課題がみられます。引き続き自学の取り組みを進めて自分の興味関心を深める機会をつくるとともに、日々の授業でも生活と結びつける視点を持たせるよう意識して取り組みます。また、ICT活用に関してはすべての項目で全国を大きく上回っており、日々の授業で日常的に活用している本校の取り組みが表れた結果となりました。今後も、児童にとってノートや物差しのように自分が使いこなせる文房具として、iPadを使って考えをまとめたり表現したりできるように活用を進めてまいります。

生活環境や学習習慣等の結果からは、大人を信頼し、学校に居場所があると感じている児童が多くいることがわかりました。「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」も全国をやや上回っており、自己肯定感が育まれていることはとてもうれしいことです。学校に行くのが楽しいと感じている児童も多いですが、100%ではありません。今年度は、行事も少しずつできることが増えてきました。その行事の取り組みを通じて仲間とのかかわりを深めていければと思います。また、日々の授業をわかりやすく楽しくするために、研究授業や研修会を通じてさらに教職員の研鑽を深めてまいります。

#### ☆ 校長より ☆

学校長としては、学力テストの成績がよかったことは単純にうれしいです。

でも、このテストを悉皆でやる意味はあるのか？全国で比較してどうする？という疑問もあります。学力テスト上位県の友だちに聞くと、学力テスト形式の模擬テストを春から何度もやっている。しかも学力不振の児童は親が休ませる。学校の先生も「あっそうですか。ありがとうございます。」だって！？

また、諸外国の児童との学力を唯一比較されるのが、「OECDの学習到達度調査 PISA」ですね。2018年の調査では、日本の15歳の生徒の数学的リテラシーは1位。科学的リテラシーは2位。読解リテラシーは11位でした。世界の中でも上位です。ところが、順位が下がると一喜一憂???

今の混沌とした世界で、日本に本当に必要なのは「情熱」と「結束」じゃないかなあ。

まあ、学力調査は競争ではないと言いながら、上位の県は何故かだいたい決まっています。

最近の大阪府の小学生は28位ぐらいでした。前より上がったけど褒めてもらったことはありません。

では、質問です。「学力」っていったい何でしょう？

学校では「テスト」があります。ドリルの練習をして、漢字や計算、県名、教科書のセンテンスを覚えて書く。理科や社会もほとんどが選択問題か、カッコ埋め問題。たまに記述式。受験用？

要するに「学力」とは「点数で評価できるペーパーテストで点が取れる力」なんですか？

テレビで「クイズ 東大王！」みたいなのが流行ってますね。でも、難問すぎる問題をただ丸暗記しても、視聴者は「おもしろい！」と離れていきました。そんな科学の隅っこを暗記した人が天才でも何でもない。今ではスマホ一台あれば勝てますから。最近は芸能人が東大生に勝つのがだいご味ですね！？

PISAの問題は思考を試す問題です。そこで求められる学力にも傾向があり、「プログラミング」や「コンピューターショナル・シンキング」などがこれからのトレンドですね。

でも、自分が41年間経験してきた学校現場では、「本当の学力」ってちょっと違うけどなあ～？

まず、2年間、校門で朝のあいさつをしています。自分から大きな声であいさつ出来る子は10人いません。低学年の数名の子ですね。マスク越しであいさつする子も50%くらいかな！？残りの子は友だちとしゃべってるか、知らん顔してる。本校では、朝は8人ぐらい並んでいる先生や警備員さんや校務員さんにつられて挨拶を返している？状態にしています。

一度、こちらから何もアクションしなかったら、みんな知らん顔で通過。「挨拶したら失礼かなあ？」と思ったか。次に目をじっと見ると、気づいてあいさつする子もいました。「しんコロ」のせい？

でも実は、何人かは「目がこっちを向いて笑う」「手をあげる、軽く会釈する」など音声言語以外の方法で、相手への意思表示しました。声を出さないコミュニケーションを理解して行動してる子です。

また、6年生が1年生と一緒にそうじをすることがあります。効率よく床を掃除するには、小回りの利く低学年の子がホウキやぞうきんを受け持ち、高学年が力のいる机やイスを軽々運ぶ。次は窓ふき。「お兄ちゃんが水汲んでくるから、ぞうきんやっというてね！」「高い窓はお姉ちゃんがやるから。下の所ふいてね！」 こういう事を自然に学ぶ。これこそが必要な「コミュニケーション能力」です。

また、実際にあった出来事ですが、下校中に歩道で転倒して怪我した下級生を数人で手分けして救助した事もありました。ケガの様子を見て、まず、近くの大人に声をかけた。工事現場の警備員さんがティッシュを持って駆けつけてくれました。通りかかったおばさんも手を貸してくれました。その間に学校に走った別の子がいて、救急箱を持った保健室の先生がすぐ現場に向かうことが出来ました。さすがです！これが「問題解決能力」です。それを集団で実践できた本校児童の「生きた学力」です。

現実の社会で起こる出来事は算数や理科みたいに原理通りには行かない事が多いです。そこで「現状の把握」をし、「情報を共有して次の行動を選択」し、すばやく「集団で迅速な行動」を取っています。これが学力でなくて何でしょう。塾で習えますか？「自己決定力」はそんな中で身につけていきます。

受験の学力なんか、後からついてきます！自分の教え子で医者、弁護士、大学教授、社長になった子は、みんな小学校時代は悪ガキでしたから。これは本当です！（笑）

これから子どもたちを待ち受ける社会は、答えのある問題は少なく、答えのない問題を解く人間こそが重要なんです。きみたちこそが「未来」であって「希望」ですから。